

## 『見知らぬ国の見知らぬ踊り』 寸評

- ・メロディの和声付けに苦心したのが奏功ともいえる個性
- ・m.1-4 印象にのこるメロディのまとまりのつけかた
- ・m.5 考えあぐねての無伴奏かもしれないが、おもいがけない pizz. が  
おもしろい効果を挙げる
- ・m.11-12 迷っていったりきたりしているのが聴いてて分かる
- ・見知らぬ国のものなら知らないはずなので『見知らぬ国の踊り』でよい

完成度をさらに上げるために

- ・ちなみに課題旋律に想定していたコード



- ・m.4, 14 b.1-2 Vn. の記譜 
- ・m.11 Vn. スラーは1拍ごとに切った方がリズムがはっきりする



- ・m.9-10 *molto cresc.* してのちm.11は *mp* に落としたら  
ダイナミックのコントラストがついてよりおもしろそう
- ・Violin I → 独奏 (伴奏つき) だから Violin でよい
- ・m.11-12 和声に少し手を入れてみる



m.=measure 小節番号のことです。  
b.=beat 拍のことです。

まとまりのないまとまりが吉。  
持筆 勉